

設立趣旨書

1. 趣旨

現代の医療技術や薬剤は飛躍的を進歩を遂げました。にもかかわらず、5人に1人が65歳以上の高齢者の時代を迎えた現状は、病苦で悩む人々や心理的な不安を訴える人々がますます増加する傾向にあります。しかも薬害訴訟でも明白なように、現代医療にはまだまだ不透明な問題がないとは言えません。はたして、私たちの健康は、現代医療だけに依存していいのでしょうか？

現代医療は、肉体の病気を診ますが、その肉体は物質的なものに限られています。しかし古来の伝承医療では、肉体には、血や肉や骨といった物質的なものとともに、東洋医学が伝える経絡やツボという気の経路の存在や、神智学などが唱える生命エーテル、アストラル体、メンタル体、それらの中継するエネルギーの集合体としての七つのチャクラなどの存在が検証されてきました。現代の医療問題が混迷を深めている今、古来の英知である伝承医療の考え方を、もう一度見直されなければならない時期に来たのではないのでしょうか。

鍼灸などに代表される東洋の伝承療法やアークルヴェーダによる医療は、目には見えない「氣」や「ドーシャ」という心身のエネルギーに作用するとされます。また、ヨーロッパなどで医療として一般化しているホメオパシーやバッチフラワーエッセンスによる療法は、心身（生体）に係る微細な「エネルギー体」に「波動共鳴」で作用を起こすと考えられます。また、ドレイクなどによって発見された青色光線による新生児の黄疸治療も、青色に振動する光エネルギーが肉体に及ぼす作用と推測されています。

このような、物質肉体でなく、心身のエネルギー場に作用すると考えられる療法を総じて「バイオフィールド医療」と名付け、その大系を総じて「バイオフィールド医学」と呼ぶこととします。なお、「バイオ」とは生体（生命）のこと、「フィールド」とはエネルギー場を含む意味を含めたもので、「バイオフィールド」は目には見えませんが、現代医学が対象とする物質肉体に重なり繋がって存在する微細な振動による実体です。

現代医学では、人をこころと（物質）肉体と精神で構成されたものと捉える考えが趨勢だと思われませんが、バイオフィールド＝生体エネルギー的考え方では、人の肉体を物質体の他に、エーテル体、アストラル体、メンタル体、さらに複数の上位精神体、オーラ領域等を想定し、それらがエネルギー的に波動共鳴原理で相互に影響・作用しているものと捉えます。物質肉体に病的症状が現われる状態、つまり、いわゆる病気になれば、それは物質肉体以外の複数のエネルギー体に相応の異常な波動的乱れがあると想定し、その異常な波動を正常にエネルギー調整するのが、バイオフィールド療法です。具体的には、気功による療法、経絡・ツボによる療法、漢方による療法、ホメオパシーおよびフラワーエッセンスによる療法、遠隔によるものを含む想念による療法、波動による療法、光線による療法、音楽および音響による療法なども、バイオフィールド療法の範疇に入ると考えられます。

この療法では、物質肉体領域にはいっさい作用を及ぼしません。その意味で、医療行為とは一線を画します。しかしそれでも、エネルギー体の病的波動が正常化されることで、波動共鳴原理によってその影響が物質肉体にも及び、症状が正常化することがあります。作用を及ぼす領域（治療の対象）がまったく異なりますので、バイオフィールド療法は、現代医療と対立するものではなく、現代医療の不足を補う役割を担ったものです。

この療法は、現代人の心身に生じたストレスやトラブルをきわめて無理なく自然に軽減させるとともに、現代医療による治療を促進する効果があります。この療法が正しく取り入れられることによって、医療は大きくその認識を変えるでしょう。そのことによって、たくさんの人々の心身の平安に貢献することができるでしょう。

そのためには、バイオフィールド療法に関するより深い調査研究を推し進めるとともに、この療法の正しい知識と方法を身につけた専門家の養成が必要であり、同時に、この療法を広く社会

に伝え普及を促進する活動母体としての組織化が必要となりました。ここに、バイオフィールド医学研究会を發起することといたします。

2. 経緯

バイオフィールド医学に属する療法は、前述のとおり古来からの伝承療法も含めて多岐に渡ります。そのなかで私たちは、マナーズ博士に由来するサイマティクス（音響）療法の普及のために、サイマ・セラピー普及会という任意団体を設立して、サイマティクス療法をマスターするための初級セミナーを2007年1～6月にかけて、つぎのとおり実施してきました（ビデオ記録あり）。

- 第1回 1月14日 身体に効く音。肩こりのケアの方法 エネルギー体としての調整法
- 第2回 2月18日 腰痛、坐骨神経痛が発症するメカニズム 日常的なストレスケア
- 第3回 3月11日 膝の痛みが発症するメカニズムとケアの仕方 心と身体の関係
- 第4回 4月15日 内臓諸器官の調え方 美しさは内面から（身体が調べば肌も美しく）
- 第5回 5月20日 身体のケアの実習 バッチフラワーの音の使い方
- 第6回 6月10日 経絡、ツボを使ったケア実習 メンタルケア実習 セラピストとは

このセミナー受講者は5名、内4名が修了者として認定されました。同時にサイマティクスによるセラピーも実施され、延べ100を超えるセラピーが行われ、その療法の著しい有効性が報告されました。その評価によって、この療法によるセラピーは、セミナー修了後も要望が続々と寄せられたため、現在まで毎月数十を超えるセラピーが継続して実施されています。

余談ですが、サイマティクス療法による処方音（5つの異なる可聴音によるの和音）を人体から離れた場所で放射する方法で、人体が放射しているであろうエネルギー場（オーラ、七つのチャクラ、エーテル体、アストラル体など）がたしかにそこに存在することを、共鳴音・非共鳴音という客観的かつ再現性のある現象によって確認できる事実をお伝えしておきます。

サイマティクス療法のセミナー後の2007年8～9月にかけて水田久美子氏（本名＝水田久美）により実施されたのが、バイオフィールド医学に属するバッチ博士由来のフラワーエッセンス療法をマスターするための初級セミナーでした。日程と内容はつぎのとおりです（ビデオ記録あり）。

パート 8月26日～27日「エッセンスの意味と働き」

パート 9月23日～24日「ケースワーク（処方）ロールプレイング」

このセミナー受講者は3名で、全員が修了者として認定されました。セミナー修了後も、この療法の勉強会は講師と修了者を含めて毎月継続されています。

このようなバイオフィールド（生体エネルギー場）に係る療法は、私たちが任意団体や個人的レベルで開催してきたセミナーやセラピーなどがたくさんの人々に伝えられ、この療法に対する関心が少しずつ、しかし確実に寄せられるようになりました。それはこれらのバイオフィールド（生体エネルギー場）にアプローチする療法が、現代医療の分野になく、しかも、そのプロセスによって生じる心身の効果に、現代医療では得られない著しい有効性が体験された結果によります。サイマティクスやフラワーエッセンスを正しく処方したときの効果は、目を見張るに十分なものがあります。

とはいえ、この優れたバイオフィールド療法は、社会的にはほとんど知られていません。それだけに私たちは、これらの療法をさらに一層深く調査研究をすすめて、より充実した大系として広くたくさんの人々に活用していただくことを願っています。そのためには普及活動とともに、セラピストの養成が急務となりました。バイオフィールド医学研究会へのご理解を賜りますとともに、より多くの方々のご賛同とご協力、ご参加をお願い申し上げます。

平成20年4月8日

特定非営利活動法人バイオフィールド医学研究会
設立代表者 埼玉県さいたま市北区奈良町9番地7
小堀英一

バイオフィールド医学研究会の設立とNPO法人申請について

NPO法人申請のための正会員（社員）のお願い

サイマトイクスの専門家として、田中凡巳、水田久美子両先生を迎えてサイマ・セラピーに関するセミナーが、いづみ京子氏などの協力によって行われたのが2007年1月から6月でした。6回のセミナーの開催により、数名の方々がセミナー修了者が誕生し、今後の活躍が期待されています。開催日に前後してセラピーも行われました。これにより、たくさんの方々がサイマトイクスという音響療法を体験することとなり、この療法に対する関心や評判が高まるにつつあり、今後ますます社会的な期待が寄せられるのは間違いがないことでしょう。

それに伴い、サイマトイクス療法の正しい普及が必要となり、同時にこの療法のセラピスト養成が急務となりました（さっそくの活動は、サイマセラピーセミナーの開催です）。

そのためには、従来の個人レベルや任意団体（サイマ・セラピー普及会）ではなく、社会的法人格を認められた特定非営利活動法人（NPO法人）としての活動が発起提案され、別紙の定款および設立趣旨書のように、「バイオフィールド医学研究会」という名称で、NPO法人設立の申請をすることになりました。

つきましては、サイマトイクス、フラワーエッセンス、鍼灸、波動などなどにご理解とご関心がある方々へのお願いでございます。

別紙、設立趣旨書、定款を充分にご検討いただき、ご理解をいただけた場合は、このNPO法人の申請のために、正会員（社員）としてご協力をいただけませんか。理事、監事以外の10名以上の社員名簿が必要です。

正会員につきましては、定款第3章にあるとおり、NPO法人組織を形成する、年1回の総会での議決権を有するコアのメンバーです（建前）。

正会員は、正会員の入会申し込みをしていただきます。当初会員は、入会金や年会費は、定款では有料の表現ですが、最後の「附則」で無料としておりますので、無料です。

正会員は、NPO法人申請に、主な社員としてお名前と現住所を掲載した名簿を提出書類の一環として、内閣府に提出します（印鑑や住民票は不要です。勤務先、電話番号等は名簿に記入しません）。

その他、定款をごらんください。

なお、バイオフィールド医学研究会では、サイマトイクス療法やフラワーエッセンスだけでなく、バイオフィールド（生体エネルギー場）に係る療法や研究を幅広く対象とする所存です。皆様方のご参加を、心より、お待ちしております。

どうか、ご理解とご協力のほど、お願い申し上げます。

追伸（賛助会員について）

NPO法人設立にあたり、年度の事業計画の作成が必要ですが、現在、予算はゼロです。当初は入会金や会費の予定を立てておりません。

法人の認可がおりましたら、寄付をしてくださる有力な個人・法人の方々のご紹介をお願いいただければ幸いです。賛助会員の募集もいたしますので、よろしく願いいたします。

（NPO法人発起人 / 田中凡巳 / 水田久美子 / いづみ京子 / 小堀英一）

設立責任者 / 事務担当 小堀英一